區別／警察署	芦原	船場	玉造	島之内	難波	戎	新町	九條	朝日橋	天王寺	天滿	曾根崎	泉尾	福島	川口	築港	網島	計	百分比
養父母	二	五	一	五			二	九	一	一	一	一	二	一	二	一	二	三五	三・八
養父丈け	一	二	三	一			一	一	一	一	三	二	一	一	一	一	一	三	一・三
養母丈け		三		三				二	二									三〇	二・二
計	八七	一四五	三〇	六七	三〇	二九	二四	一八七	四四	三三	五七	二六	二八	二八	二九	三八	二三	九〇四	一〇〇・〇
不明	八	二四	一	一三	八	一〇	五	五九	四	五	一〇	三	七	一六	六	一	三	二一	
總計	九五	一六九	三〇	八〇	三八	三九	二九	二四六	四八	三七	六七	二九	三五	四四	三五	四九	四五	一、一二五	

次に大阪市に付て見るに天滿、九條、船場、芦原各管内は兩親健在比較的多く、三割乃至四割を占め網島、福島は之に反して不明の數字が多い。兩市を通じて特に目立つのは實父繼母の者が繼父實母の者より遙に多い點である。之れ母親は父親より多く家庭内に居るものであるから繼母であるといふ事は女子をして繼父の場合より一層家庭を嫌ふ樣になる爲であらう。

三　兄弟の數

女給生活を送つてゐる人達は家庭の經濟上裕福な者は極めて少なく中には精神的に同情すべきもの多々あるは言ふ迄もないが之等の人達の兄弟の數は一體どの位のものか。又其れから起る彼等の境遇も考へて見たかつたのであるが調査の結果は兄弟の數と彼等の境遇との間に如何なる關係があるか發

見することは出來ぬ。以下調査の結果のみを簡單に記して參考に供することゝする。

他に一人の兄弟もなく自分一人の者東京一、六二二人中一一三人（七分）大阪一、〇八一人中六五人（六分）、兄弟の數十一人なるもの東京大阪共に三人、一番多いのは四人のもので東京二九四人、大阪二〇九人即ち各々一割八分一割九分に相當する。第二位は東京は五人のもの大阪は三人のもので第三位にあるは東京三人のもの大阪五人のもので兩市の數の差は極く僅かであるが順序は一寸違つて居る。第四位も別々で東京六人兄弟、大阪二人兄弟である。要之四人兄弟のものが最も多數を占めてそれより兄弟の數が多くなり或ひは少くなるに從つて次第に順序正しく女給の數の減少して行く點は兩市全く同樣で只各別々に見れば第二、第三、第四位が前述の如く相違し、概括すれば東京の女給の方が大阪のそれよりも一般に兄弟數が多いと言へよう。左に大した參考にはならぬかも知れぬが表示して見よう。

第七表　兄弟の數調査（本人を含む）

兄弟の數＼實數率	實數 東京	實數 大阪	實數 計	率 東京	率 大阪	率 計	順位
本人丈け	一一三	六五	一七八	七・〇	六・〇	六・六	七
二人	一九三	一四三	三三六	一一・九	一三・二	一二・四	五
三人	二七三	一八九	四六二	一六・八	一七・五	一七・一	三

兄弟の數 ＼ 實數率	實數 東京	實數 大阪	實數 計	率 東京	率 大阪	率 計	順位
四人	二九四	二〇九	五〇三	一八・一	一九・三	一八・六	一
五人	二八四	一八八	四七二	一七・五	一七・四	一七・五	二
六人	二一八	一三二	三五〇	一三・四	一二・二	一二・九	四
七人	一三〇	九二	二二二	八・〇	八・五	八・二	六
八人	七七	三四	一一一	四・七	三・一	四・一	八
九人	二六	一九	四五	一・六	一・八	一・七	九
一〇人	一一	七	一八	〇・七	〇・六	〇・七	一〇
一一人	三	三	六	〇・二	〇・三	〇・二	一一
一二人	—	—	—	—	—	—	—
一三人	—	—	—	—	—	—	—
計	一、六二二	一、〇八一	二、七〇三	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	
不明	四八	三四	八二				
總計	一、六七〇	一、一一五	二、七八五				

兩市を合計したる結果は四人兄弟の第一位たるは言ふ迄もないが、第二位は五人兄弟、第三位は三人、第四位は六人、第五位は二人、第六位は七人と言ふ順序である。

四　出身府縣

之に付ては東京と大阪とで甚しい相違のあるのは當然である。殊に明かなる相違は東京市の女給であれば勢ひ東京市並びに其府下育ちのもの多く、大阪市の方では矢張り大阪府下育ちの多數あるは當然であつて怪しむに足らない。故に相違したる所を擧げるとすれば東京では東京以外の如何なる府縣育ちが多いか、大阪では大阪府以外の如何なる府縣育ちが多いかを見ねばならぬ。

第八表　出身府縣別調

道府縣別	實數 東京	實數 大阪	實數 計	率 東京	率 大阪	率 計
北海道	五一	八	五九	三・一	〇・七	二・一
東京	七四五	四〇	七八五	四五・一	三・六	二八・五
大阪	一八	三七七	三九五	—	三四・二	一四・三
京都	九	四六	五五	—	四・二	二・〇
神奈川	七九	九	八八	四・八	〇・八	三・二
兵庫	一四	九六	一一〇	—	八・七	四・〇
長崎	一四	一〇	二四	—	〇・九	〇・八
新潟	六三	四	六七	三・八	〇・三	二・四
埼玉	五一	一	五二	三・一	—	一・九
群馬	三七	二	三九	二・二	—	一・四
千葉	一二二	二	一二四	七・四	—	四・五
茨城	五三	—	五三	三・三	—	一・九

道府県別	實數 東京	實數 大阪	實數 計	率 東京	率 大阪	率 計
栃木	六四	―	六四	三・九	―	二・三
奈良	二	二〇	二二	―	一・八	〇・七
三重	一三	一一	二四	―	一・〇	〇・八
愛知	二九	一七	四六	―	―	一・八
靜岡	三四	三	三七	―	―	一・三
山梨	七	―	七	―	―	―
滋賀	六	一三	一九	―	一・二	〇・六
岐阜	一〇	四	一四	―	〇・三	〇・五
長野	三九	四	四三	二・四	〇・三	一・五
宮城	一四	―	一四	―	―	〇・五
福島	二八	―	二八	―	―	一・〇
岩手	一一	二	一三	―	―	―
青森	六	―	六	―	―	―
山形	一九	二	二一	―	―	〇・七
秋田	一三	―	一三	―	―	―
福井	一〇	一四	二四	―	一・二	〇・八
石川	一〇	一五	二五	―	一・三	〇・八
富山	一二	五	一七	―	〇・四	―
鳥取	―	五	五	―	〇・四	―
島根	二	一四	一六	―	一・二	〇・五
岡山	四	二四	二八	―	二・二	一・〇
廣島	四	五四	五八	―	四・九	二・一
山口	一一	二四	三五	―	二・二	一・二
和歌山	一	五三	五四	―	四・八	二・〇
德島	二	五八	六〇	―	五・三	二・二
香川	三	四二	四五	―	三・八	一・七
愛媛	八	二九	三七	―	二・六	一・三
高知	三	二二	二五	―	一・九	〇・八
福岡	一一	一七	二八	―	一・五	一・〇
大分	二	一三	一五	―	一・二	〇・五
佐賀	―	三	三	―	―	―
熊本	五	一六	二一	―	一・四	〇・七
宮崎	一	六	七	―	―	―
鹿兒島	一	一五	一六	―	一・三	〇・五
沖繩	五	―	五	―	―	―
朝鮮	―	三	三	―	―	―
臺灣	五	―	五	―	―	―
計	一、六五一	一、一〇三	二、七五四	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
不明	一九	一二	三一			
總計	一、六七〇	一、一一五	二、七八五			

右表に依つて見る時は大體に於て東京では關東、信越地方より來る者多く、大阪では近畿、中國、四國地方出身の者が大部分を占めてゐることが分る。又東京は帝都であるだけに全國大抵の府縣から集まり一人も調査に現はれぬ縣は鳥取、佐賀、朝鮮だけである。之に反して大阪は商工業の中心地で現今では日本一の都會であるとはいへ茨城、栃木、山梨、宮城、福島、青森、秋田、沖繩、臺灣の諸方面からは一人も調査に現はれて居らぬ。

然らば東京、大阪兩市を通じて何れの府縣から最も多く來ておるか、換言すれば何れの府縣が一番カフエー等の女給を出しておるかと言へば東京府、大阪府は今更言ふ迄もないことであるが二府を除けば千葉が第一位一二四人で東京の女給の七分餘を占め兩市の合計から見ても五分に近い。次は兵庫縣であつて大阪の女給の約九分を占め全體から見ても四分に達する。次は新潟、栃木、德島、廣島の順序であるが前二者に比較すれば遙かに劣る。

次に東京市の女給に就て東京府出身とそれ以外の府縣の出身の合計を比較すれば

區別＼實數率	實	數	率
東京府		七四五	四四・六
其他の府縣		九二五	五五・四
計		一、六七〇	一〇〇・〇

同樣の關係を大阪の女給に就て見れば

區別＼實數率	實	數	率
大阪府		三七七	三三・八
其他の府縣		七三八	六六・二
計		一、一一五	一〇〇・〇

東京の女給の東京府出身のものは大阪のそれに比較して多い。

右東京府、大阪府出身者を更に各々市部出身と郡部出身とに分ちて見るときは左の如くである。

區別＼實數率	實	數	率
東京府市部		六一七	八二・八
同郡部		一二八	一七・二
計		七四五	一〇〇・〇

區別＼實數率	實	數	率
大阪府市部		三一六	八三・八
同郡部		六一	一六・二

出身府縣別調べを更に警察署管内別に調べて見るに先づ東京の部は

第九表　出身府縣別調（東京）

區別＼實數率	實數	率
計	三七七	一〇〇・〇

道廳及府縣	北海道	東京 市	東京 郡	京都	大阪	神奈川	兵庫	長崎	新潟	埼玉	群馬	千葉	茨城
日比谷	二	六三	一〇		一	一	一	一	一	二	二	二	二
錦町	二	四四	九	一		五	五	一	七	二	五	一〇	二
西神田	二	二〇	五	三	一	五	二	一	五	六	五	六	一
新橋	一	一八	一			三		一	一	一		三	二
北豊島		三四	六			二			四	三		七	二
三田	一	一六	六			九	一			一	一	四	三
表町	五	一七	二	一	一	五					三		一
四谷	六	二三	二四	二		七	二	一	六	五	一	七	二
神樂坂	一	二六	七			三		一	二	三		二	四
早稲田	二	八	四			二				五	一	九	四
富坂	四	二二	三			二				五	二	九	四
本富士	二	一四	八	一		五		一	四	三	二	四	五
上野	六	六三	六	一	四	五		一	一〇	三	六	一三	五
象潟	九	一三	一七			二三		一	二	二	一	二	六
原庭	二	二五	六		四			四	五	二	七	二	二
洲崎		一九	四			二		一	二				一
大塚	一	一九	一			二			三	三		三	一
日本堤	一	三〇	三			二		一	二	一	一	九	五
築地	四	四四	六			一			八	四		五	三
計	五二	六七	一二八	九	一八	七九	一四	一四	六三	五一	三七	一二三	五三

道廳及府縣	栃木	奈良	三重	愛知	静岡	山梨	滋賀	岐阜	長野	宮城	福島	岩手	青森	山形	秋田	福井	石川	富山	鳥取	島根	岡山	廣島	山口
日比谷	二		一		四	一				二			一			一								
錦町	二			三	二				五				一					一	一			一	一
西神田	五		一		五	一		二	四		四				一	二		三					二
新橋	三		一	一								一											
北豊島	三					一		一						一									
三田	一			一	三		一		二			二				一							
表町	二			一						一	一										一		
四谷	九			四	三		一	一	五		二	一	二	五	三	二	一	一					三
神樂坂	三				三								一	一				一	一				一
早稲田	三		一			一			二			二			一		一		二		一		
富坂	四			一	一	二			五		一	二	一	二		一							
本富士	四				一	一		一	二		二			二									
上野	七		一	三	四	一		一	三	二		一		二	一		一						
象潟	七		一	四	三	四				四	三	三		一	三	四			一				
原庭					一	四	一						一					二					
洲崎	一																						
大塚	二				二				三				一			一							
日本堤	三			二	二					一	二	三		一							二		
築地	三			一	二	一				三		三			一	四							
計	六四	二	一三	二九	二四	七	六	一〇	二九	一四	二八	二	六	九	二三	一〇	〇	二	四	四	二	一	二

道廳及府縣	日比谷	錦町	西神田	新橋	北紺屋	三田	表町	四谷	神樂坂	早稲田	富坂	本富士	上野	象潟	原庭	洲崎	大塚	日本堤	築地	計
和歌山																				
徳島																				
香川																				
愛媛																				
高知																				
福岡																				
大分																				
佐賀																				
熊本																				
宮崎																				
鹿児島																				
沖縄																				
臺灣			外人一		朝鮮一														支那一	五
計	一〇五	一二五	九八	四〇	六九	五六	四三	一四六	七四	五五	七七	七三	五六	二一七	七七	三九	三五	七六	一〇三	一、六四七
不明	二	三	一	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	八	一	一	一	一	三	二三
總計	一〇七	一二八	九八	四三	六九	五六	四三	一四六	七四	五五	七七	七三	五六	二二五	七七	三九	三五	七六	一〇五	一、六七〇

右表中各管内の調査數に於て東京府出身者が各管内總數の半分以上を占むる警察署は日比谷、北紺屋、象潟、洲崎の四署管内である。殊に日比谷は大半東京府出身の女給であつて約七割を占め、他の三ヶ所は何れも東京出身者は六割に當る。之に反して最も地方出身者の多いのは早稲田管内の八割を第一位とし、第二位は西神田の七割五分、次に大塚、本富士、富坂の三ヶ所は何れも地方出身者七割である。

大阪に就て見れば

第十表　出身府縣別調（大阪）

道廳及府縣	芦原	船場	玉造	島之内	難波	戎	新町	九條	朝日橋	天王寺	天滿	曾根崎	泉尾	福島	川口	築港	網島	計
北海道	一																	
東京	二	八	一	四														
京都	一	一四	二	一			二	七			七	三	一	一				四六
大阪	二三	五六	九	二六	五	一〇	七	六六	一四	一四	二三	八	七	七	九	一三	一〇	三六
神奈川	八	九	一	三	六	一		一五	二	一	五	一		二	四	一	三	六一
兵庫	一					二	二	三							一	一		九
長崎	三	一八	二	六	五	六	二	二	五	二	五	四	三	七	二	三	二	九六
新潟	三	一	一	一				三			二				一			一〇
埼玉		二															一	四
群馬				二					一									二
計	一	一	一	一	一	一	一	四	一	一	一	一	一	一	四	五	二	八

總計	不明	計	朝沖	鹿宮	熊佐	大福	高愛	香德	和山	廣岡	鳥取	計
			鮮	糊島	崎本	賀分	岡知	愛川	島山	口島	島山	祖
九五	一	九四	二	三	三	一	一	三	一	一四	七五	一
一六九	一	一六九	一	二	一	一	一	三	三	三六	五七	三五
三〇	一	三〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一四
八〇	一	八〇	一	一	一	一	一	一	三	二	三	一
三七	一	三七	一	一	一	一	一	一	二	一	二	一
三九	一	三九	一	一	一	一	一	三	一	三	一	一
三七	三	三七	一	一	一	一	一	一	一	二	一	一
一四六	二	一四六	二	二	五	一	四	一	四	九	五	二七
四八	一	四八	一	一	一	一	一	三	四	一	七	二
三七	一	三七	一	一	一	一	三	一	一	一	一	一
六七	一	六七	一	一	一	一	一	一	一	四	一	一
三九	一	三九	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三	一	三	一	一	一	一	二	一	四	四	三	一
四四	一	四四	一	一	一	三	一	四	一	五	二	一
三五	一	三五	一	一	一	一	一	三	一	一	二	一
四九	一	四九	一	一	一	一	一	四	一	三	四	一
四五	一	四五	一	一	一	一	一	一	一	三	二	一
一八三五	三	一八〇三	三	五	六	六	三	三	七	三	九	三

道路及府縣	芦原	船橋	玉造	内島之	雛波	戎	新町	九條	稱明日	寺天王	天滿	崎脊根	泉尾	福島	川口	築港	網島	計
取山	川井	田形	森手	島城	野牟	賀梨	岡知	重良	木城	濱								
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
五	五	五	四	二	二	二	四	四	三	一	三	七	二	二	〇	一	一	二

右表中管内の調査數の中、比較的大阪府出身者の多いのは島之内、天滿の二ヶ所にして前者は半數、後者は四割である。之に反し大阪府以外の府縣出身者の多いのは福島管内が第一であつて八割に當る。之に次ぐのは新町管内の七割六分である。即ち東京に比較して大阪は概して大阪以外の出身者が多い。

五　在京、在阪の期間

現在女給をしてゐる者が東京又は大阪の生活に慣れて居るかどうか、換言すれば東京或ひは大阪に滯在する期間は如何程であるかを調べて見た。其の結果を表に掲ぐれば左の通りである。

第十一表　上京阪後の期間調査

年月別		出生地なる者	數			率		
			東京	大阪	計	東京	大阪	計
一年	一ケ月	六四六	二〇	一六	三六	六・〇	五・二	五・六
	二ケ月		三一	二三	五四	九・四	七・四	八・四
	三ケ月		二四	三七	六一	七・三	一一・九	九・五
以内の月別	四ケ月	二七三	三九	三一	七〇	一一・八	一〇・〇	一〇・九
	五ケ月		四二	四六	八八	一二・七	一四・九	一三・八
	六ケ月		二二	二三	四五	六・六	七・四	七・〇
	七ケ月		二六	三一	五七	七・九	一〇・〇	八・九
	八ケ月		二〇	一四	三四	六・〇	四・五	五・三
	九ケ月		一九	一七	三六	五・七	五・五	五・六
	一〇ケ月		二三	三〇	五三	七・〇	九・七	八・三
	一一ケ月		四七	二四	七一	一四・二	七・八	一一・一
	一二ケ月		二八	一七	三五	五・四	五・五	五・五
一年以内			三九	三一	七〇	一一・八	一〇・〇	一〇・九
二年以内			四二	四六	八八	一二・七	一四・九	一三・八
三年以内			二二	二三	四五	六・六	七・四	七・〇
五年以内			二六	三一	五七	七・九	一〇・〇	八・九
一〇年以内			二〇	一四	三四	六・〇	四・五	五・三
一〇年以上			一九	一七	三六	五・七	五・五	五・六
計			二三	三〇	五三	七・〇	九・七	八・三
			二四	二四	四七	一四・二	七・八	一一・一
			一八	一七	三五	五・四	五・五	五・五
計			三三一	三〇九	六四〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
一年以内			三三一	三〇九	六四〇	三四・四	三七・三	三五・七
二年以内			一七九	一七八	三五七	一八・六	二一・四	一九・九
三年以内			一〇三	八七	一九〇	一〇・七	一〇・五	一〇・六
五年以内			一四二	一〇三	二四五	一四・八	一二・四	一三・七
一〇年以内			一四〇	一〇三	二四三	一四・六	一二・四	一三・六
一〇年以上			六八	四八	一一六	七・一	五・八	六・五
計			九六三	八二八	一、七九一	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
不明			六一	一四	七五			
總計			一、六七〇	一、一一五	二、七八五			

區別＼賃數率	賃數 東京	賃數 大阪	賃數 計	率 東京	率 大阪	率 計
上京阪したる者	九六三	八二八	一、七九一	五九・九	七五・二	六六・〇
出生地なる者	六四六	二七三	九一九	四〇・一	二四・八	二四・〇
計	一、六〇九	一、一〇一	二、七一〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
不明	六一	一四	七五			
總計	一、六七〇	一、一一五	二、七八五			

區別＼賃數率	賃數 東京	賃數 大阪	賃數 計	率 東京	率 大阪	率 計
出生地なる者	六四六	二七三	九一九	—	—	—
上京阪後一年以内の者	三三一	三〇九	六四〇	三四・四	三七・三	三五・七
同　一年以上の者	六三二	五一九	一、一五一	六五・六	六二・七	六四・三
計	九六三	八二八	一、七九一	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
不明	六一	一四	七五			
總計	一、六七〇	一、一一五	二、七八五			

右表の中滯在月別にある數の相違は左程意味あるものではない。一ヶ年以内の者が東京に於ては三三一人、大阪に於ては三〇九人であつて調査總數から不明者、東京、大阪を出生地とする者を除くときは東京三割四分餘、大阪三割七分餘に達し上京阪後日猶淺きものが多數を占めてゐる。五年以上の者は東京二〇八人(二割二分)、大阪一五一人(一割八分)に過ぎぬ。此の調査に於て東京、大阪を出生地とするものは東京六四六人、大阪二七三人であるが出身府縣別調査に於ては東京府出身者と稱するもの七四五人、大阪府出身者といふ者三七七人で其差東京九九人、大阪一〇四人である。此の數は東京、大阪を出生地とはしないが出身地、即ち主として育てられたる地とする者なる所から見るときは地方から幼少の時に父母其他の親戚に連れられて一家揃つて上京阪した者と見ねばならぬから他府縣より相當の年輩に達して働く爲に上京阪して居る者には長期間の者は至つて少ないことゝなる。

更に之を警察管内別に分つときは

第十二表　上京後の期間　(東京)

期間＼警察署	日比谷	錦町	西神田	新橋	築地	北紺屋	三田	表町	四谷	神樂坂	早稻田	富坂	本富士	上野	象潟	原庭	洲崎	大塚	日本堤	計
出生地なる者	六三	四三	一六	一七	四五	三九	一六	一四	五五	二八	一三	二	一五	五八	一八	二五	三	九	三〇	六四六

期間／警察署	一ケ月	二ケ月	三ケ月	四ケ月	五ケ月	六ケ月	七ケ月	八ケ月	九ケ月	一〇ケ月	一一ケ月	一二ケ月	計	二ケ年以内	三ケ年以内	五ケ年以内	一〇ケ年以内	一〇ケ年以上	計
日比谷	一	一	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一一	七	四	八	三	八	二〇
錦町	二	四	三	二	六	三	二	一	一	二	二	四	三一	九	五	三	二	四	四一
西神田	一	一	三	一	六	一	一	一	四	二	七	二	二八	一四	八	七	一〇	一〇	四九
新橋場	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	四	二	二	六	八	二	二〇
築地	一	一	二	二	六	一	一	一	一	一	四	一	一八	一三	六	八	四	六	三七
北紺屋	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二	一	一	七	一〇	三	三	二	一	一八
三田	一	三	二	二	一	一	三	一	一	一	四	一	一六	七	三	七	四	二	二三
表町	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	六	五	二	六	三	四	二〇
四谷	二	三	七	七	一	一	四	一	一	一	五	五	二六	一六	一三	一七	八	二	五五
神楽坂	二	二	三	一	一	四	一	四	二	一	一	二	一八	五	七	七	六	一	二五
早稲田	一	一	二	三	一	二	一	一	一	一	一	一	一三	一二	六	六	七	一	二〇
富坂	一	一	一	三	三	三	三	三	二	一	一	一	一九	一二	八	七	七	二	三五
本富士	四	二	二	二	一	一	一	四	二	一	五	一	二五	八	六	六	九	一	二九
上野	七	五	三	二	二	二	二	二	三	二	六	二	二六	一九	九	一〇	九	八	五五
象潟	一	二	五	二	三	二	三	二	一	三	一	一	二二	一六	八	一八	二〇	一二	七四
原庭	一	二	二	二	一	二	二	一	一	五	一	一	一八	一二	六	七	八	一	二二
洲崎	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	四	一	一	三	六	二	一三
大塚	二	二	二	一	一	一	三	一	一	一	一	一	一三	六	二	二	三	一	一三
日本堤	一	一	一	二	一	一	二	一	一	二	四	一	一三	七	五	二	一三	六	三三
計	二〇	三二	二四	二九	三三	二六	二三	二〇	一九	二三	四七	一八	三三二	一七九	一〇三	一四三	一四〇	六八	六三八

第十三表　上阪後の期間（大阪）

期間／警察署	一ケ月	二ケ月	三ケ月	四ケ月	五ケ月	六ケ月	七ケ月	八ケ月	九ケ月	一〇ケ月	一一ケ月	出生地なる者	不明	總計
芦原	四	三	四	四	六	二	五	二	三	四	一	二四	八	一〇七
船場	一	三	九	六	八	三	二	二	一	二	五	五四	三	二八
玉造	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	八	五	九八
島之内	一	一	二	二	二	一	二	一	三	四	六	二九	二	四三
難波	一	二	一	一	一	三	一	一	一	一	二	五	五	一〇五
戎	一	一	一	一	四	一	一	一	二	一	一	八	五	六九
新町	一	一	一	一	一	一	一	一	二	一	一	四	一	五六
九條	二	五	八	六	一〇	六	五	五	四	一〇	四	五六	三	四三
朝日橋	一	一	二	一	一	二	一	一	一	一	一	三	一	一四六
天王寺	一	一	一	一	二	一	一	二	一	一	一	二	三	七四
天滿	一	一	五	二	三	一	二	二	一	一	一	二	一	五五
曾根崎	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	四	二	七七
泉尾	三	一	一	三	一	一	一	一	一	一	一	五	三	七二
福島	二	一	一	一	三	一	一	一	二	二	一	六	七	一五六
川口	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	九	二	二二五
築港	一	二	二	二	一	二	一	一	一	一	一	七	一	七七
網島	二	一	二	一	一	三	四	一	一	一	二	一〇	一	三九
計	一六	二三	三七	二六	四六	二三	二二	一四	一七	三〇	二四	二七三	六一	一、六七〇

期間 ＼ 警察署	芦原	船場	玉造	鳥之内	難波	戎	新町	九條	朝日橋	天王寺	天滿	曾根崎	泉尾	福島	川口	築港	網島	計
一二ヶ月	一	四	三	一	一	一	一	五	一	一	一	一	一	一	一	三	一	一七
計	三七	四五	一〇	二三	二	八	八	七〇	九	六	一八	二	二	一三	四	一七	一八	三〇九
二ヶ年以内	一〇	二三	五	六	六	二	四	四一	六	七	一四	六	九	八	八	九	五	一七八
三ヶ年以内	五	一四	二	三	六	三	三	二〇	三	四	五	一	七	七	四	六		八七
五ヶ年以内	六	一七	三	五	六	一	四	二〇	九	三	三	五	四	七	五	二	三	一〇三
一〇ヶ年以内	九	八	一	九	三	四	三	二八	六	三	五	八	三	二	二	五	四	一〇三
一〇ヶ年以上	三	六	一	四	一	四	三	九	三	三	一	二	一	一	三	三	一	四八
計	三三	六八	三	二七	三	三	一七	一八	二七	二〇	二八	三	一八	二九	三	二九	三	五一九
不明	一	二	一	一	一	一	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	四	一四
總計	九五	一六九	三〇	八〇	三八	三九	二九	二四六	四八	三七	六七	二九	三五	四四	三五	四九	四五	一、一二五

右により東京に於ては日比谷管内は東京出生の女給多く、地方から來たものも在京期間は比較的長い。大塚では、之に反して在京期間が可成り短い。大阪では曾根崎、川口最も在阪期間長く、朝日橋が之に次ぐ。而してその比較的短いものは芦原管内である。

六　前職の有無

前職があるや否やと言ふ意味は女給生活に入る以前には何をして居たかと言ふことであつて現在の店に入る前には何をして居たかと言ふ事ではない。本調査を嚴密に解すれば先づ職業と言ふ言葉の意味を決定してかゝらねばならぬが之は非常に問題のある言葉で國勢調査に際して統計局等でも相當に考慮を費して結局纒つた考は出なかつたやうだ。本調査では難かしい理論は抜きにして常識的に前の生活狀態の内容から職業に携つておつたと言ひ得るや否やで分類した。其によると兩市を通じて不明者一三四人を除いた殘り二、六五一人の中六三九人即ち二割四分が前職を持ち此の内東京は三五四人、大阪は二八五人で不明者を除いた調査數に對しての割合から言へば東京は二割三分弱、大阪は二割七分弱で大阪の方が多いのである。猶分類の内容を表に掲ぐれば左の如くである。

第十四表　前職有無

種別 ＼ 賃數率	賃數 東京	賃數 大阪	賃數 計	率 東京	率 大阪	率 計
家事の手傳	八三四	四三九	一、二七三	六八・三	五五・五	六三・三
家業の手傳	四三	二〇	六三	三・五	二・五	三・一
農業の手傳	六〇	四五	一〇五	四・九	五・七	五・二

種別	實數 東京	實數 大阪	實數 計	率 東京	率 大阪	率 計
無						
學校	八五	五〇	一三五	七・〇	六・三	六・七
裁縫	九九	一一	二一〇	八・一	一四・〇	一〇・四
內職	一六	五	二一	一・三	—	—
親戚に寄食	四二	三九	八一	三・四	四・九	四・〇
結婚生活	四一	三四	七五	三・四	四・三	三・七
遊藝稽古	一	一	二	—	—	—
無職	—	四七	四七	—	五・九	二・三
計	一、二二一	七九一	二、〇一二	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
有						
官廳	—	四	四	—	—	—
小學校教員	二	—	二	—	—	—
雜誌記者	一	—	一	—	—	—
事務員	五〇	三八	八八	一四・一	一三・三	一三・八
交換手	一二	一一	二三	—	三・九	三・六
タイピスト	—	四	四	—	—	—
商店員	一八	二九	四七	五・一	一〇・二	七・二
看護婦	一一	八	一九	三・一	—	三・〇
髪結見習	五	六	一一	—	—	—
仕立業見習	三八	二四	六二	一〇・七	八・四	九・七
産婆	—	一	一	—	—	—
女中	一四三	九八	二四一	四〇・四	三四・四	三七・七
女工	三一	二八	五九	八・八	九・八	九・二
旅館料理屋女中	二二	一六	三八	六・二	五・六	五・九
遊戯場勤め	六	八	一四	—	—	二・二
遊藝稼ぎ	一〇	七	一七	二・八	—	二・九
女優	五	三	八	—	—	—
計	三五四	二八五	六三九	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
不明	九五	三九	一三四			
總計	一、六七〇	一、一一五	二、七八五			

區別	實數 東京	實數 大阪	實數 計	率 東京	率 大阪	率 計
前職あり	三五四	二八五	六三九	二二・五	二六・五	二四・一
同なし	一、二二一	七九一	二、〇一二	七七・五	七三・五	七五・九
計	一、五七五	一、〇七六	二、六五一	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
不明	九五	三九	一三四			
總計	一、六七〇	一、一一五	二、七八五			

右表によりて前職の有る部と無い部との内容には如何なるものが含まれておるかを示したが其内意味の不明瞭な事項につき説明すれば農業の手傳ひは結局家業の手傳ひと同一のものであるが特に農村から都會に出て女給となるものが如何程の數に達するかを明かにしたい爲に區別したに過ぎぬ。

家事の手傳ひと家業の手傳ひとは一寸似て居るが相當な異ひがある家業の手傳ひは其家の職業上の手傳ひなるが家事の手傳ひとは家の職業以外の普通所謂主婦のする仕事の手傳ひの意味である。親戚に寄食とは適當な言葉ではないが記載上其以上の内容は分らないから其儘無職中の一項としたが、中には實際上有職の部に屬するものもないではないと思ふ。然し大部分は親戚の世話になつて家庭見習ひ位の程度のものであらう。其れが爲め無職中に入れた。結婚生活は畢竟主婦として生活して來た意味で、遊藝稽古も見方によつては有職の方に入れてもよいが遊藝稼ぎ人になる爲の見習ひの意味ではないと見て無職の方が適當であらう。髪結ひ見習ひ、仕立業見習ひは將來髪結ひや仕立屋になる目的で見習つて居るものであるから有職に入れた。此點に於て無職の方の裁縫と異なる。不明は無職の方でも有職の方でも何れに入れても差支へぬわけであるが便宜上兩部何れにも入れないで別々にした。

無職の方では家事の手傳ひが大多數を占めてゐるのは當然で東京では約七割大阪では五割五分を含み兩市を通じて六割三分に當る。裁縫は第二位を占め東京九九人(八分)、大阪一一一人(一割四分)であつて次は兩市共學校生活者である。之によつて小學校を終へてから直ちに女給になる者も相當な數に達することが分る。次は農業の手傳ひで東京六〇人(五分)、大阪四五人(六分)。之迄は東京、大阪共順序が同じで、他は多少變化があるが大體に於て同一と言つて差支へない。目立つて多いのは大阪に於ける裁縫從事者である。家事の手傳ひが大阪は東京に比較して甚だ少ない所から見ると同地方の風習として一般家事手傳を、裁縫してゐると云ふ樣に裁縫從事者の記載についての考へ方が兩市に於て多少相違したゝめであらう。

次に有職者の方では東京は女中一四三人(四割)、事務員五〇人(一割四分)、仕立業見習ひ三八人(一割一分)、女工三一人(九分)の順序で大阪では女中九八人(三割四分)の第一位なることは同樣で次は事務員三八人(一割三分)、商店員二九人(一割)、女工二八人(一割弱)、仕立業見習ひ二十四人(八分)の順序である。兩市を通じて見る時は有職者六三九人中女中は二四一人(三割八分)で第一位、第二位は事務員の八八人(一割四分)次は仕立業見習ひ一割、女工一割、商店員七分の順序である。一寸目立つのは東京で小學校教員二名あるのと女優が通じて八名ある點である。

右の項内を更に警察管内別に示せば

第十五表　前　職（東京）

種別＼警察署	日比谷	銀町	西神田	新橋場	築地	北紺屋	三田	表町	四谷	神樂坂	早稻田	富坂	本富士	上野	象湯	原庭	洲崎	大塚	日本堤	計
家事の手傳ひ	七六	六二	三三	三〇	五五	三三	一八	二三	六〇	三八	三	三〇	三七	七三	二六	三八	二〇	一八	四〇	八三四

第十六表　前　職（大阪）

種別＼警察署	日比谷	錦町	西神田	新橋	築地	北紺屋	三田	表町	四谷	神樂坂	早稲田	富坂	富士本	上野	象潟	原庭	洲崎	大塚	日本堤	計
家業の手傳ひ	二	三	六	一	一	一	三	一	七	二	一	四	四	三	一	四	一	一	一	四三
農業	一	六	九	一	二	一	三	三	八	五	四	六	一	七	二	七	一	一	六	六〇
親戚寄食	一	四	一〇	一	一	三	一	二	一	三	五	一	二	八	七	一	一	一	一	四三
結婚生活	一	一	三	一	一	一	二	一	六	三	四	二	七	二	九	六	一	一	一	四二
裁縫	三	六	一〇	四	二	一〇	七	一	六	三	一	三	二	七	七	七	一	一	一	九八
仕立業	一	一三	一	一	二	四	一	一	一	一	一	六	一	八	九	一	一	一	一	三八
內職	一	一	一	一	一	一	一	一	二	一	一	三	一	二	二	一	一	一	一	一六
學校	九	一〇	三	一	三	二	一	一	一	四	一	三	五	一〇	一三	三	三	一	一	八五
小學校教員	一	一	一	一	一	二	一	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一二
雜誌記者	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
事務員	一	四	一	一	六	一	二	五	三	一	四	一	二	七	八	一	一	一	一	五〇
交換手	一	一	一	一	一	二	一	一	二	一	一	一	一	二	一	一	一	一	一	一八
商店員	四	一	一	一	一	二	一	一	一	一	一	一	一	四	二	一	一	一	一	一三
看護婦	一	二	一	一	一	二	一	一	一	一	一	二	一	七	八	一	一	一	一	一
髮結見習	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
女中	二	八	七	三	九	四	三	三	二	五	七	一	二	三	一〇	一	一	一	一	一四三
女工	一	四	二	一	一	一	二	二	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
旅館料理屋女中	一	一	一	一	二	一	一	一	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
遊藝稽古	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
遊戯場つとめ	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
遊藝稼ぎ	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

種別＼警察署	芦原	船場	玉造	島之內	難波	戎	新町	九條	朝日橋	天王寺	天滿	曾根崎	泉尾	福島	川口	築港	網島	計
家事の手傳ひ	一七	七六	七	三	三	一五	一〇	九三	一八	九	三八	一三	二〇	一九	一四	二三	一五	四三九
家業の手傳ひ	六	一	一					五										二〇
農業	九	五	三			四	四	一五	四		二		一	二	一		四	四五
親戚に寄食	六	六			二			二						二	一			三九
結婚生活	七	三	一	二		四	一	八	一	二	一			二	二		六	三四
裁縫	五	二〇	五	一四	五	七	二	一八	二	一	九	四	三	二	一	九	三	一二
仕立業	一	五	一	二		二		三			七	一		一	一			二四
內職	一																	五
學校	一	一三	二	四	二	二	二	九	三	五			三	四	二	一	一	五〇
會社事務員	一	六	三	二	一	三	一	三	一	三	五	二	一	三	一	一		三八
交換手	一		一		一													二
女優			一															五
計	一〇三	一一三	九二	四一	九四	六三	五四	四一	一四二	七一	五三	七二	七二	一四九	二〇二	七三	三六	三三
不明	四	五	六	二	一	六	二	一	四	三	二	五		七	二三	四	三	二
總計	一〇七	一一八	九八	四三	一〇五	六九	五六	四二	一四六	七四	五五	七七	七二	一五六	二二五	七七	三九	三五

種別＼警察署	芦原	船場	玉造	島之内	難波	戎	新町	九條	朝日橋	天王寺	天満	曾根崎	泉尾	福島	川口	築港	網島	計
タイピスト																		
官廳雇																		
商店員	三	二	二															
看護婦		一		一	一													
產婆																		
髮結業見習	五																	
女中	一七	一三	四	四	四	二	六	一七	一〇	三								
女工	六	二		二		三												
旅館料理屋女中	四		一	一														
遊藝稽古		一						八	二									
遊戲場つとめ	二	一						八										
遊藝稼ぎ	三																	
女優																		
無職		九		一〇	一			二〇		三			二					四七
計	九五	一六四	三〇	七五	三七	三九	二八	二三七	四八	三三	六五	二八	三四	四三	三三	四九	四〇	一、〇七六
不明	一	五	一	五	一	一	一	九	一	五	二	一	一	二	二	一	五	三九
總計	九五	一六九	三〇	八〇	三八	三九	二九	二四六	四八	三七	六七	二九	三五	四四	三五	四九	四五	一、一二五

東京の部を見るに特に目立つのは日比谷管内である、即ち一〇三人の中七八人(七割六分)は家事手傳ひ、次に學校に通つておつたものが九人他は不明者を除き全部で一二人に滿たず、之に依つて日比谷管内の女給は一般に以前は眞面目な生活にあつたものである。之に反して三田管内では家事の手習ひに從事しておつたものは一八人で三割餘に過ぎぬ。猶日本堤管内では遊藝稼ぎを前職とするものが五人あつて同業を前職とする者の半數を占めるのは注目に値する。

大阪に至ると芦原の家事手傳ひ一七人(一割八分)のみなるに反して女中の一七人、女工、旅館、料理屋の女中、遊戯場勤め、遊藝稼ぎ合せて一五人は何といつても女給の質の低い點に於ては第一位のものと見ねばならぬ。然るに島之内管内は約半數が家事の手傳ひであつて女工以下の前職者は極めて少なく場所柄から見ても大阪に於ては最も質のよい方であらう。

七　就職理由

本調査の目的からしても此の就職理由の項は實に多大の注意を惹く所である。調査票に書かれた文字には種々雜多の理由があるとしても其心の中に相共通した理由のあることが窺はれる。

先づカフエーは他の職に比して(一)就職が至つて簡易であると言ふこと。大體に於て別に紹介狀を要するではなし女給入用の札を見てバスケット一つで本人が「雇つて下さい」との一言を發して頭を一つ下げれば直ぐ其場で採用され其晩から收入がある。別に學力に制限されるでもなければ保證人の必要

もなく、實に就職の手續きは之程簡易なものはあるまい。それで(二)收入は他の職に比して多い。(三)又身體が割合に樂であると言ふことで選ぶものもある。次に(四)表面如何にも華かそうな生活を憧れて釣込まれるものもある。大體以上四つの事項を就職理由の基準と見ることが出來る。

第十七表　就職理由調査

理由＼實數率	實數 東京	實數 大阪	實數 計	百分比 東京	百分比 大阪	百分比 計
震災のため	七四		七四	四・九		二・九
家計補助	五〇五	二九〇	七九五	三三・六	二八・二	三一・六
家庭の事情	一三九	一〇〇	二三九	九・二	九・七	九・八
扶養のため	七一	五五	一二六	四・七	五・三	四・九
自活のため	六二	七五	一三七	四・一	七・三	五・四
嫁入支度のため	七九	二一	一〇〇	五・二	二・〇	三・九
收入多きため（貯金したき爲め少なくかせぐため）	一五三	一三八	二九一	一〇・一	一三・四	一一・五
手傳のため	五五	二五	八〇	三・七	二・四	三・二
一時的生活のため	三三	一四	四七	二・二		一・八
他に職なきため	六六	八四	一五〇	四・四	八・二	五・九
同業開店したため	五四	七	六一	三・六		二・四
修養のため	八	六	一四			
好奇心により	七七	八一	一五八	五・一	七・九	六・二
人に勸められて	二二	三四	五五	一・四	三・三	二・二
學資を得るため	一六	三	一九	一・〇		〇・八
無聊のため	一一	一〇	二一	〇・七	一・〇	〇・八
離婚のため	一二	八	二〇	〇・七	三・三	〇・八
勞働を嫌ひて姉妹や友達がつとめてゐるので	二〇	三三	五三	一・四	三・二	二・一
男にだまされて	三	一二	一五		一・一	〇・六
丙午生れを悲觀して	一	一	二			
都に憧れて	一	一	二			
別に理由なし	六	六	一二	〇・三		〇・五
失戀のため	三三	二五	五八	二・二	二・四	二・三
	五		五			
計	一、五〇五	一、〇二九	二、五三四	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
不明	一六五	八六	二五一			
總計	一、六七〇	一、一一五	二、七八五			

先づ表に付て見れば東京、大阪共に家計補助の爲に就職したものが第一位を占め、其數東京は五〇五人(三割三分六厘)大阪は二九〇人(二割八分二厘)で次は收入多き爲と言ふ項で東京は一五三人(一割一厘)、大阪は一三八人(一割三分四厘)である。兩市共揃つて此の兩項は特別多數を占めて居るものであるが之は兎に角收入の多いのを目當てに勸めて居る人達である。收入の多き爲と言ふ項は勿論

單なる家計補助や其他家の爲已むを得ずと言ふ理由の者の外に學力を要さぬ割合に收入が多くてよいからと言ふ類のものも尠なからず含まれてゐるであらう。又田舍から出て來て嫁入前に一稼して少しは垢拔すると共に衣裳も作つてと言ふ樣なのが只單に金儲けになるからと言ふ書き方で此の項に含まれて居るものも多少はあるかも知れぬ。又將來の生活の安定の爲金を貯めて置きたいと言ふので二、三年の積りで勤めて居るものも含めてゐる。

次に多いのは東京は家庭の事情一三九人(約一割)、嫁入支度七九人(五分)、好奇心に依つて七七人(五分)、震災の爲七四人(五分)、扶養の爲七一人(四分七厘)、自活の爲六二人(四分)の順位を示し、大阪市の方は家庭の事情一〇〇人(一割)、他に職なき爲八四人(八分二厘)、好奇心により八一人(七分九厘)自活の爲七五人(七分三厘)、扶養の爲五五人(五分三厘)の順を示して居る。

大阪に於ても震災の爲にと言ふ理由を二三目にしたが家計補助の中に入れた。東京に於ては特に之を選び出して見て大災後三年の今日猶災害の跡が如何にマザ〳〵と殘つてゐるかを見るに足る數字を見た。

家庭の事情と言ふ項の中には「家庭不和の爲」とか「母なくして家庭面白からず」、「兄弟多き爲」、「姉二人迄娼妓に賣られて自分も賣られんとするを避けて」其他單に「家庭の事情の爲」と言ふ者をも含んでゐるものである。他に職なく已むを得ずとか、自活の爲と言ふ項と共に合せて、之等の中には勿論身から出た錆の果のものもあらうが眞に止むなく世を嘆き身を隱す爲に此の巷に入込み遂に享樂に醉つて其刻々を慰めんとするものも相當多數あることが思はせられる。而して荒み果てた心に誘惑が甘い蜜となつて禍し更に奥深く沈み行き救ふに途なき奈落の底に落入ると云ふ徑路を辿るものもあらう。

好奇心によりてと言ふ項は「興味ありて」「好きで」「一時の出來心で」「享樂を追つて」と言ふのを纒めて好奇心によつてと表はしたものである。又其中には「カフエーの裏面を研究せんと思ひ立ちて」とか「女給研究のために」「社會見學のために」と言ふ三つの特殊なものをも含めて居るものである、然し兎に角此の項は職を撰ぶ際に自ら進んで興味を持つて入つたと言ふものである。

次に他に職なき爲と一時的生活の爲とは共によく似た理由と看做すことが出來る、兎に角何かなければならぬが適當な職もない、手蔓もなければ學力も餘りないのでと言ふのもあれば、中には何の目的もなく田舍から出て來たが、來て見ると以上の樣な狀態で仕方がなく此の職に就いたものもあらう、就職が簡單で一日一日現金が得られ又止めるに容易であり何人にも出來る職である爲に斯る人達に適するわけである、之と同時に此の浮た心に誘惑の魔が深く喰ひ入るのであるが明瞭に其理由を都の華かな生活に憧れてと書いたものが東京、大阪共に六人宛ある。

前の二項には眞に最初から嫌ひながら入つたものもあらうが此の十二人は明かに火に憧れて飛び込んだ夏の虫と云ふところであらう。

手傳ひの爲に叔父、叔母の家に來て居ると言ふもの、親類で手がないと言ふので已むなく手傳ひに來たと言ふものが意外に多い。

同業開店の希望で見習ひに來て居るものが東京に於ては可成りにある。女でも割合に容易に經營出來て收入も多いと言ふので希望する者も多いのであらう。理想的な喫茶店でも開く目的で希望欄にカフエーの改革具體案を述べて居るものもあつた。

勞働を嫌つてと言ふ中には紡績女工や田舍の農業に就て居たものや女中等が多く身體が弱いために斯る勞働が辛いので外に職もなくカフエーに入つて來たものが大部分である。

第十七表　就職理由調査（其二）

理由別＼實數率	實數 東京	實數 大阪	實數 計	百分比 東京	百分比 大阪	百分比 計
經濟的理由	一、一二五	六九五	一、八二〇	七四・八	六七・五	七一・八
然らざるもの	三八〇	三三四	七一四	二五・二	三二・五	二八・二
計	一、五〇五	一、〇二九	二、五三四	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
不明	一六五	八六	二五一			
總計	一、六七〇	一、一一五	二、七八五			

今之を常識的に考へて經濟的理由によるもの（震災の爲、家計補助、扶養の爲、自活の爲、嫁入仕度の爲、收入多き爲、一時的の生活の爲、他に職なき爲、同業開店の爲、學資を得る爲、離婚の爲）が兩市を合せて全體の七割二分弱で、然らざるものが二割八分强であるが、東京の方は經濟的理由によるもの大阪のそれに比して高率を示してゐるのは意外の樣であるが震災後確かに生活の窮迫を來たし子女を馭つて斯る方面の活動に向はしめたことを示したものであらう。且社會の必要と相俟つての現象であること言ふ迄もない。

次に各警察管内に依つて其就職理由を見るに

第十八表　就職理由調査（東京）

理由別＼警察署	日比谷	錦町	西神田	新橋	築地	北紺屋	三田	表町	四谷	神樂坂	早稻田	富坂	本富士	上野	象潟	原庭	洲崎	大塚	日本堤	計
震災のため	一〇	一	四	一	三	六	二	一	七	三	一	六		四	一七	一	三	一	三	七四
家計補助	五八	三五	一七	一三	三一	二〇	二〇	一五	三七	二八	八	五	一六	三九	八六	二	一八	一〇	二六	五〇五
家庭の事情	五	三	六	二	五	六	二	五	一〇	五	七	六	六	二三	二五	四	二	二	八	一三九
扶養のため	九	三	五	二	五	一	四	一	四	一	二	六	三	六	一二	五	二	一	二	七一
自活のため	一	七	八	二	四	五	二	一	八	二	四	一	一	二	二	二	二	二	一	六三
嫁入支度のため	三	四	二	一	五	六	二	八	八	七	一	二	六	五	一〇	八	二	二	五	七九
收入多きため（貯金したき爲めなど等）	二	一四	三	一	三	三	六	四	二	八	一三	二	四	一四	一三	四	二	七	一	一五三
手傳ひのため	一	六	六	一	二	一	二	二	六	七	七	三	三	三	二	四	二	一	一	五五

第十九表　就職理由調査（大阪）

理由別＼警察署	日比谷	錦町	西神田	新橋	築地	北紺屋	三田	表町	四谷	神楽坂	早稲田	富坂	本富士	上野	象潟	原庭	洲崎	大塚	日本堤	計
一時的に生活のため																				
他に職なきため	四	三	三	二	四	一	四	七	二	四	三	六	八	二	三	六	一	二	一	三
同業開店したため	二	四	七	一	一		五			三	一			五	三	四			五	一
修養のため	二																			
好奇心により	二	五	六	二	六	三	四	一		九		三	六	一	七	三				
人にすゝめられて	一	一	二																	
學資を得るため		三																		
無聊のため	一		一	三	一															
離婚のため			二																	
勞働を嫁ひて	一		一																	
姉妹や友達がつとめてゐるので																				
男にだまされて																				
丙午生れを悲觀して																				
都に憧れて																				
別に理由なし		六	五																	
失戀のため																				
計	一〇〇	一〇五	九二	四〇	八六	五四	五五	四〇	一四三	六九	五二	六九	六一	一三二	一九四	七四	三七	三三	七〇	一、五〇五
不明	七	一三	六	三	一九	一五	一	二	三	五	三	八	一二	二五	三二	三	二	二	六	一六五
總計	一〇七	一一八	九八	四三	一〇五	六九	五六	四二	一四六	七四	五五	七七	七二	一五六	二二五	七七	三九	三五	七六	一、六七〇

理由別＼警察署	芦原	船場	玉造	島之内	難波	戎	新町	九條	朝日橋	天王寺	天滿	曾根崎	泉尾	福島	川口	築港	網島	計
家計補助	七	六七	六	二七	五	一六	五	四七	一九	一三	二八	一六	一〇	七	一〇	六	一	二九〇
家庭の事情	二	一三	一	一六	九	二	三	二五	二	二	三		二	二	四	四	八	一〇〇
扶養のため	三	九	五	五	一	一	二	九		三	三	二	一	一	一	二	七	五五
自活のため	七	一六		四	二		一	二九	二	一	一		一	一	一	六	三	七五
嫁入支度のため		二		三				八		二	八	二	一	一	四	一	一	二
收入多きため（金儲けの見めもふくむ）	六	一三	五	一二	四	一〇	七	二四	一三	二	二	一	三	九	七	二	三	一八
手傳ひのため	二	二	一	二			一	一〇		一	三	一	一				一	二五
一時的に生活のため	一	一	一	一					一		一	三	五	四			四	七
他に適當なる職なく											一		一	二			一	八四
同業開店したため		三																一四
修養のため		一	一	一	一	二	一					一	六					六
好奇心により	八	七	二	二	七	三		三	二	四	五	二		五			二	八一
人にすゝめられて											一							六
學資をうるため	四	五	一	一	一	二	三	一〇	四	一	二	三	七	二	一	一	一	七
無聊のため		一	一	一	一						一	一		一			一	一〇
離婚のため	六	三	一	一	一		一	一										八
勞働を嫁ひて	三	二	二	三				四										一
姉妹や友達がつとめてゐるので																		
男にだまされて	四			六	一				一	二								一三
計	一一五	一一八	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一

理由別＼警察署	芦原	船場	玉造	島之内	難波	戎	新町	九條	朝日橋	天王寺	天滿	曾根崎	泉尾	福島	川口	築港	網島	計
丙午生れを悲觀して都を憧れて	二	一	一	一	一	一	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
別に理由なし	一	四	一	一	一	一	一	五	二	一	二	一	三	一	二	一	一	六
計	九四	一五四	三〇	七六	三四	三八	三六	一三六	四六	三六	六五	二七	三三	三六	三一	四五	三三	一、〇二九
不明	一	一五	一	四	四	一	三	二〇	二	一	二	二	三一	八	四	四	三	八六
總計	九五	一六九	三〇	八〇	三八	三九	三九	二四六	四八	三七	六七	二九	三五	四四	三五	四九	四五	一、一二五

大體に於ては特に各署管内に依つての差もない樣であるが靜かに考へて見ると日比谷署の家計補助五八人が一寸目立つて多數を示して居ることに氣が付く。それに更に震災の爲を加へると六八人になり同署管内の總數中より不明を差引た一〇〇人に對して六八人即ち約七割を占めて居る。大體日比谷署の調査は「中央亭や精養軒や何々食堂」と言ふ樣な大きな處で而かも夜間營業なき處多く、從つて割合實直な家庭の娘が多數を占め、震災後已むを得ず恥らひ乍ら勤めて居ると言ふ樣なものが多いので斯る數字を示したものと思はれる。好奇心によりと言ふ理由に就て上野の十二は一寸注意を惹くものであるが最も多數の地方人を吸收する停車場に近いと言ふことが何か意味をもつものであらうか。

次に大阪に就て見るに芦原に於ては家計補助割合少く、他に適當なる職なき爲と、勞働を嫌ひてと言ふのが特に多いのに目を惹く第十六表の前職調べの芦原署を參照すれば其の前職は女中、女工、旅館女中、遊戯場勤め、遊藝稼ぎなど兎に角普通の家庭から出て一度浮世の風を吸つて居るもの〻多いことに依つて見れば肯ける、九條に家庭の事情の爲と言ふもの〻多いのは目を惹く、又好奇心の爲にと言ふ數字も相當多數を示して居るが之も第十六表を參照すれば自ら肯ける點もある。共に女給の質は他に比して落ちてゐると思はれる。

八　女給生活の期間

第二十表　女給生活の期間調査

期間別＼賃數率	賃數 東京	賃數 大阪	賃數 計	賃數率 東京	賃數率 大阪	賃數率 計
一ケ月	八七	五〇	一三七	九・七	七・九	八・九
二ケ月	一一三	一〇八	二二一	一二・六	一七・〇	一四・四
三ケ月	一一六	九三	二〇九	一二・九	一四・六	一三・六
四ケ月	一一〇	六四	一七四	一二・二	一〇・〇	一一・三
五ケ月	九〇	七七	一六七	一〇・〇	一二・一	一〇・九
六ケ月以上	七四	五五	一二九	八・二	八・六	八・四